

# 定点把握疾患の届出状況(令和7年1月～6月)

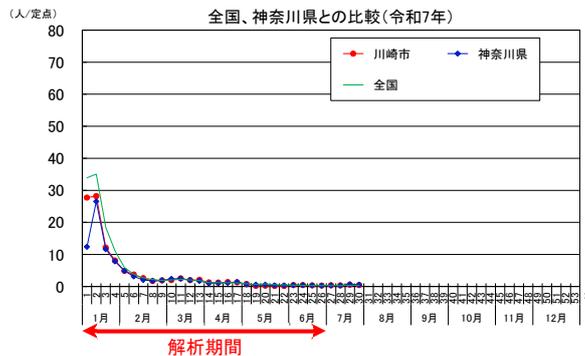
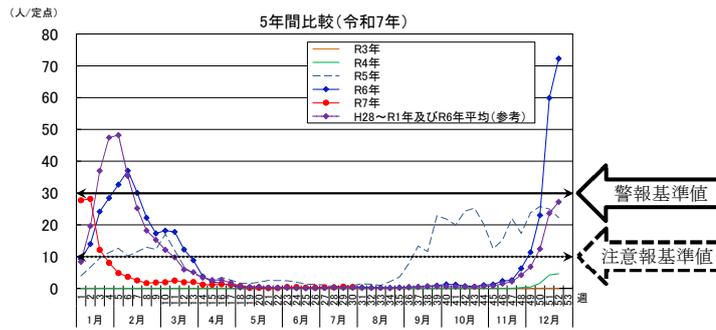
## <急性呼吸器感染症定点対象疾患>

※令和2年～令和5年は新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、他疾患の報告数が通常と異なる傾向であったため、平成28年から令和元年及び令和6年の平均を過去5年平均とし、比較を行った。

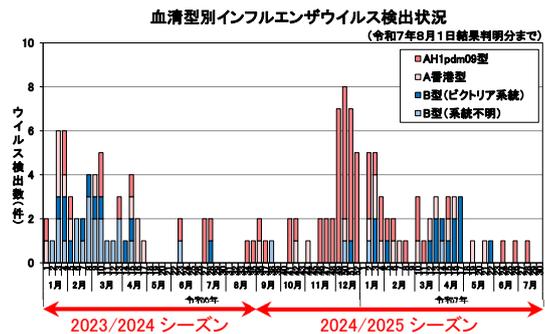
インフルエンザ(警報基準値:定点当たり30人、注意報基準値:定点当たり10人)

### 【川崎市】

今期(令和7年1月～6月)は定点当たり3.60人の報告があり、過去5年平均と比較すると0.31倍で、例年より低いレベルで推移しました。2024/2025シーズンは、令和6年第40週(9月30日～10月6日)に定点当たり患者報告数が1.28人となり流行期(定点当たり1.00人)に入った後、第49週(12月2日～12月8日)に定点当たり患者報告数が11.41人となり、流行発生注意報基準値を超えました。第51週(12月16日～12月22日)には定点当たり59.92人となり、流行発生警報基準値を超え、第52週(12月23日～12月29日)には、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」が施行された平成11年以降最多の報告数(定点当たり72.28人)となりました。その後報告数は減少し、令和7年第18週(4月28日～5月4日)に定点当たり1.00人を下回り、非流行期となりました。

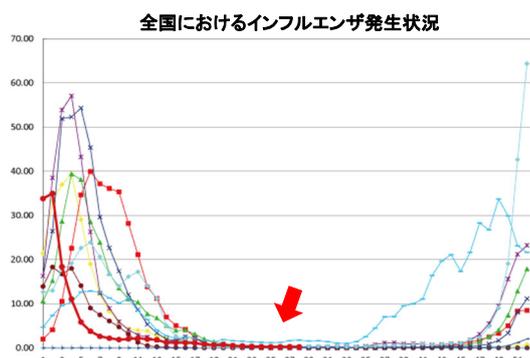


なお、病原体定点からの病原体検出状況は次のとおりです。2024/2025シーズンは、AH1pdm09型が50件、A香港型が17件、B型(ビクトリア系統)が15件、B型(系統不明)が4件検出されました。



### 【全国及びその他】

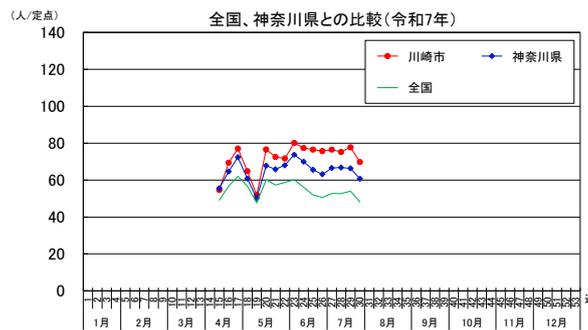
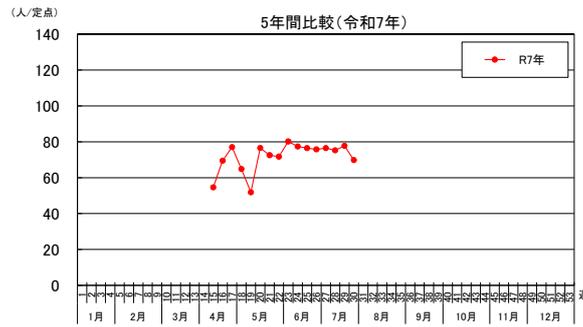
全国的には例年よりやや低いレベルで推移しました。



# 急性呼吸器感染症

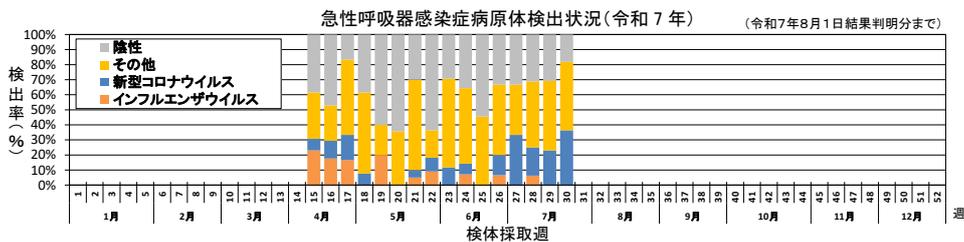
## 【川崎市】

急性呼吸器感染症が定点把握疾患となった令和7年第15週以降の定点当たり報告数は70.76人でした。サーベイランス開始以降、概ね横ばいで推移しています。



解析期間

なお、病原体定点から168件の検体が搬入され、病原体検出状況は次のとおりです。



急性呼吸器感染症病原体検出状況(詳細)

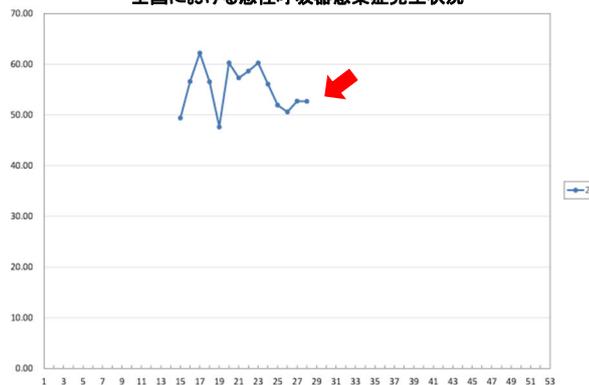
病原体	検出数(件)	検出率
インフルエンザウイルス	14	8.33%
新型コロナウイルス	16	9.52%
ヒトバラインフルエンザウイルス	38	22.62%
ライノウイルス	29	17.26%
ライノ/エンテロウイルス	9	5.36%
アデノウイルス	6	3.57%
ヒトメタニューモウイルス	3	1.79%
RSウイルス	2	1.19%

(複数検出検体あり)

## 【全国及びその他】

全国的にも横ばいで推移しました。

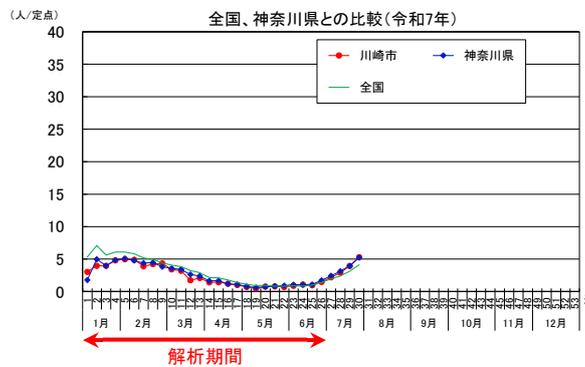
全国における急性呼吸器感染症発生状況



# 新型コロナウイルス感染症

## 【川崎市】

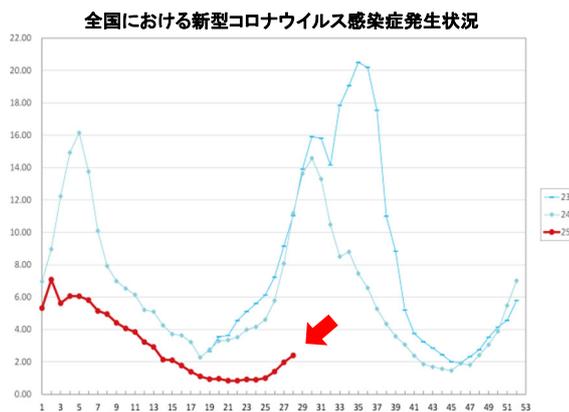
今期は定点当たり 2.36 人の報告があり、令和 5 年及び令和 6 年と比較して低いレベルで推移しました。年当初から患者報告数がやや増加し、第 5 週（1 月 27 日～2 月 2 日）に流行のピーク（定点当たり 4.98 人）となった後、報告数は減少しましたが、第 26 週（6 月 23 日～6 月 29 日）は定点当たり 1.49 人とやや増加しました。



なお、令和 7 年 4 月 7 日以降、急性呼吸器感染症として 168 件の検体が搬入され、そのうち 16 件から新型コロナウイルスが検出されました。

## 【全国及びその他】

全国的にも令和 5 年及び令和 6 年より低いレベルで推移しました。



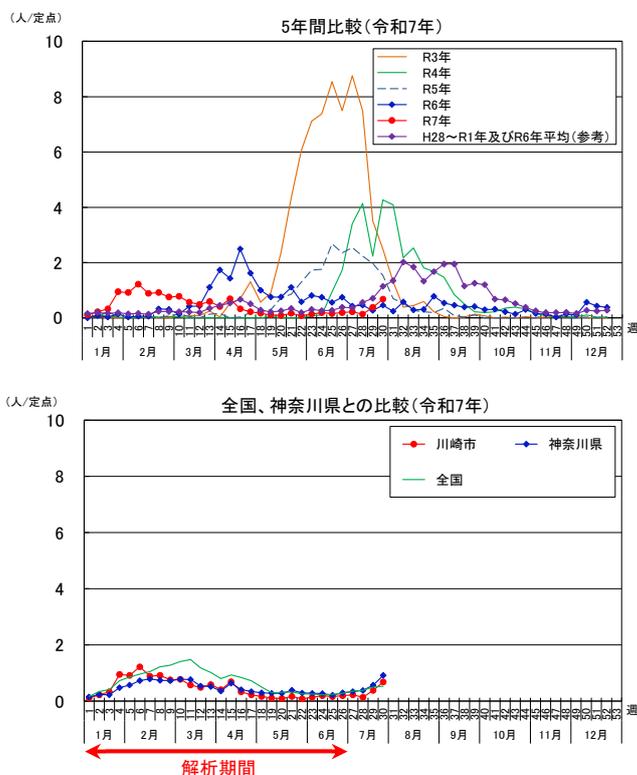
# <小児科定点対象疾患>

※令和2年～令和5年は新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、他疾患の報告数が通常と異なる傾向であったため、平成28年から令和元年及び令和6年の平均を過去5年平均とし、比較を行った。

## RSウイルス感染症

### 【川崎市】

今期は定点当たり 0.46 人の報告があり、過去5年平均と比較すると 1.63 倍で、例年より高いレベルで推移しました。1月下旬以降患者報告数が増加し、第6週（2月3日～2月9日）に流行のピーク（定点当たり 1.22 人）となりましたが、その後は減少しました。

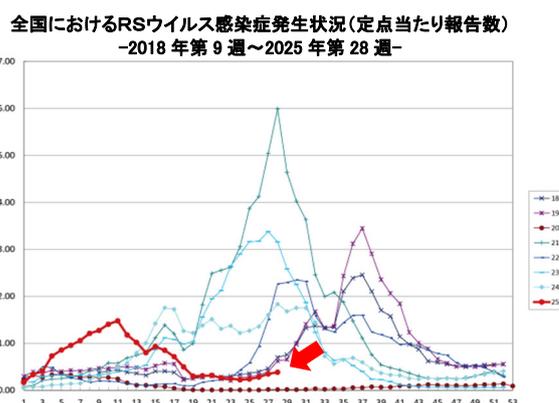
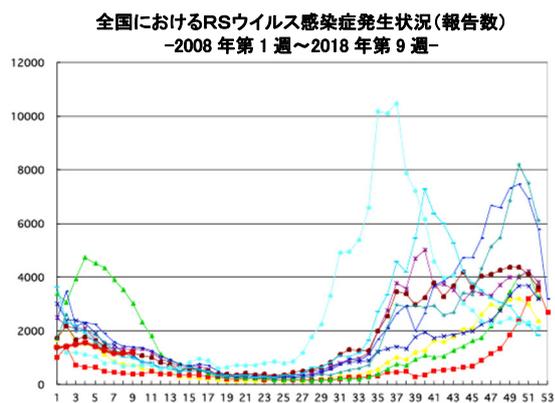


なお、病原体定点からの病原体検出状況は次のとおりです。

区名	患者性別	患者年齢	検体採取日	検査材料	検査結果
中原区	男	1	R7.1.22	鼻咽頭ぬぐい液	RSウイルス A型
高津区	女	1	R7.3.27	鼻咽頭ぬぐい液	RSウイルス B型
幸区	男	1	R7.5.7	鼻腔ぬぐい液	ヒトパラインフルエンザウイルス 3型
幸区	女	1	R7.6.2	鼻汁	ヒトパラインフルエンザウイルス 3型

### 【全国及びその他】

全国的には例年よりやや高いレベルで推移しました。



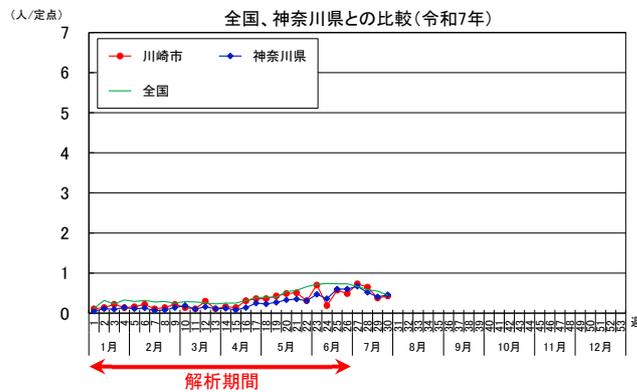
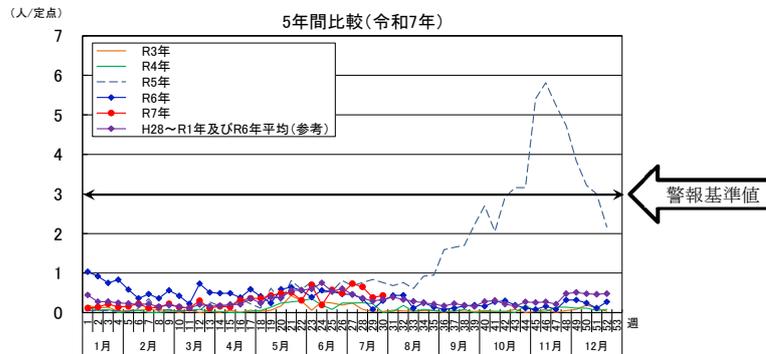
※2018年第9週(2月26日～3月4日)から、国立感染症研究所におけるRSウイルス感染症の集計方法が変更となりました。(報告数→定点当たり報告数)

咽頭結膜熱(警報基準値:定点当たり3人)

【川崎市】

今期は定点当たり 0.27 人の報告があり、過去 5 年平均と比較すると 0.83 倍で、例年並みのレベルで推移しました。

今期、流行発生警報基準値 (3) を超えた週はありませんでした。



なお、病原体定点からの病原体検出状況は次のとおりです。

区名	患者性別	患者年齢	検体採取日	検査材料	検査結果
高津区	女	1	R7.6.2	鼻咽頭ぬぐい液	ヒトパラインフルエンザウイルス 4 型、ライノウイルス

【全国及びその他】

全国的にも例年並みのレベルで推移しました。

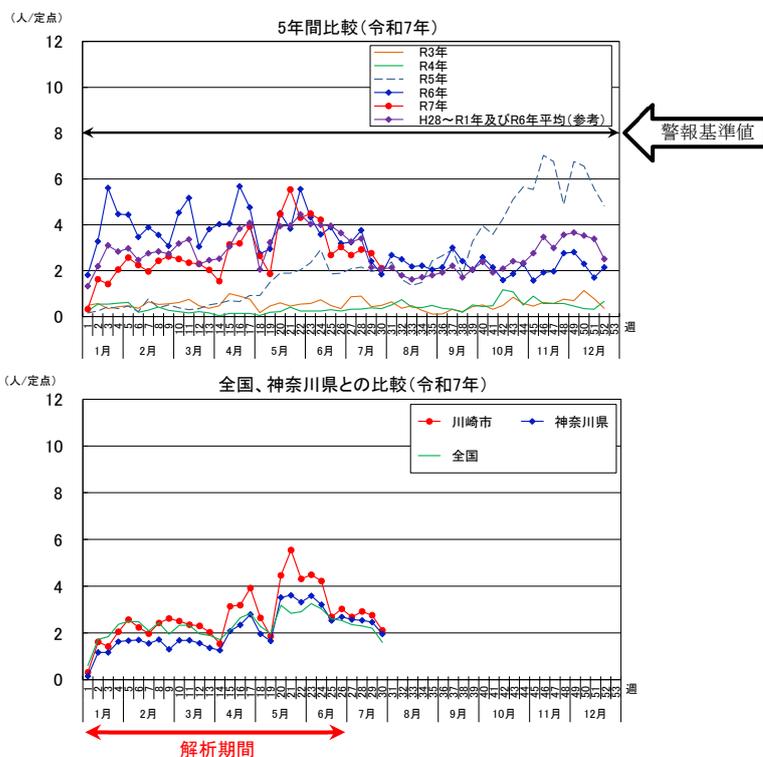


## A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(警報基準値:定点当たり8人)

### 【川崎市】

今期は定点当たり 2.78 人の報告があり、過去 5 年平均と比較すると 0.88 倍で、例年並みのレベルで推移しました。年当初から例年並みのレベルで推移していましたが、第 21 週 (5 月 19 日～5 月 25 日) に報告数が増加し、流行のピーク (定点当たり 5.54 人) となりました。その後報告数は減少し、例年並みのレベルで推移しました。

今期、流行発生警報基準値 (8) を超えた週は、高津区で第 21 週及び第 22 週、宮前区で第 21 週及び第 23 週でした。

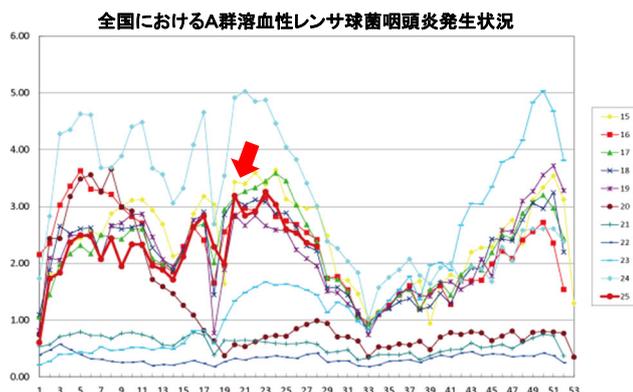


なお、病原体定点からの病原体検出状況は次のとおりです。

区名	患者性別	患者年齢	検体採取日	検査材料	検査結果
中原区	男	3	R7.1.14	咽頭ぬぐい液	A 群溶血性レンサ球菌 T 型別不能
高津区	男	9	R7.2.4	咽頭ぬぐい液	不検出
中原区	男	2	R7.3.17	咽頭ぬぐい液	A 群溶血性レンサ球菌 T4
高津区	男	5	R7.4.3	咽頭ぬぐい液	A 群溶血性レンサ球菌 TB3264
多摩区	男	6	R7.4.7	咽頭ぬぐい液	A 群溶血性レンサ球菌 T4
幸区	女	9	R7.5.12	咽頭ぬぐい液	不検出
中原区	男	5	R7.6.9	咽頭ぬぐい液	A 群溶血性レンサ球菌 T 型別不能
高津区	男	11	R7.6.20	咽頭ぬぐい液	不検出

### 【全国及びその他】

全国的にも例年並みのレベルで推移しました。

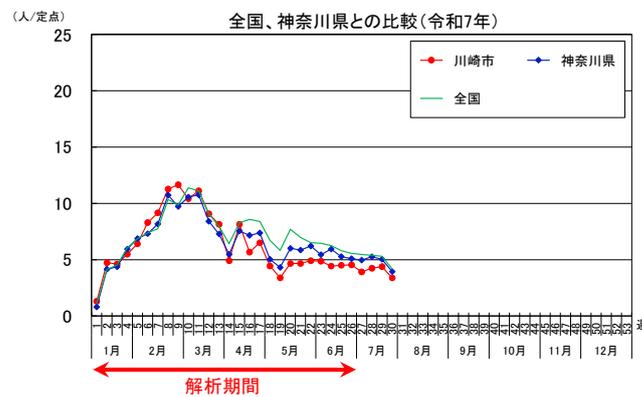
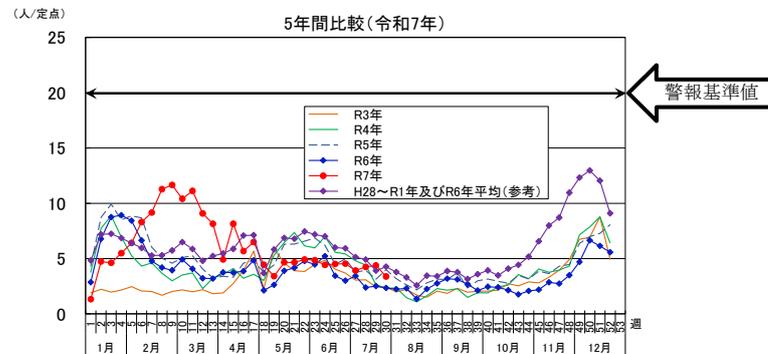


## 感染性胃腸炎(警報基準値:定点当たり 20 人)

### 【川崎市】

今期は定点当たり 6.55 人の報告があり、過去 5 年平均と比較すると 1.07 倍で、例年並みのレベルで推移しました。年当初は報告数が増加し、第 6 週 (2 月 3 日～2 月 9 日) 以降は例年と比較してかなり高いレベルで推移しましたが、第 16 週 (4 月 14 日～4 月 20 日) 以降は減少し、例年並みのレベルで推移しました。

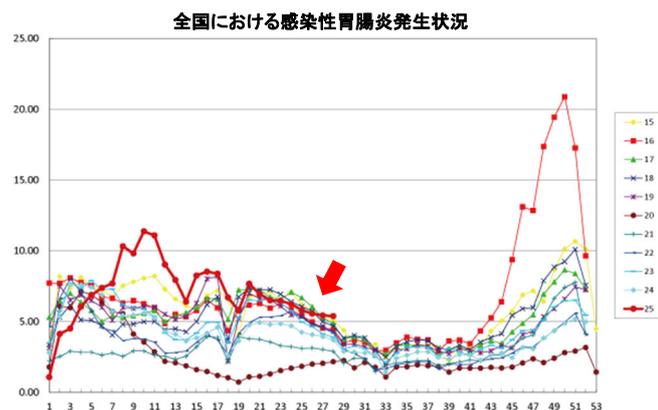
今期、流行発生警報基準値 (20) を超えた週は、高津区で第 8 週及び第 11 週でした。



なお、病原体定点からの検体の提供はありませんでした。

### 【全国及びその他】

全国的には例年より高いレベルで推移しました。

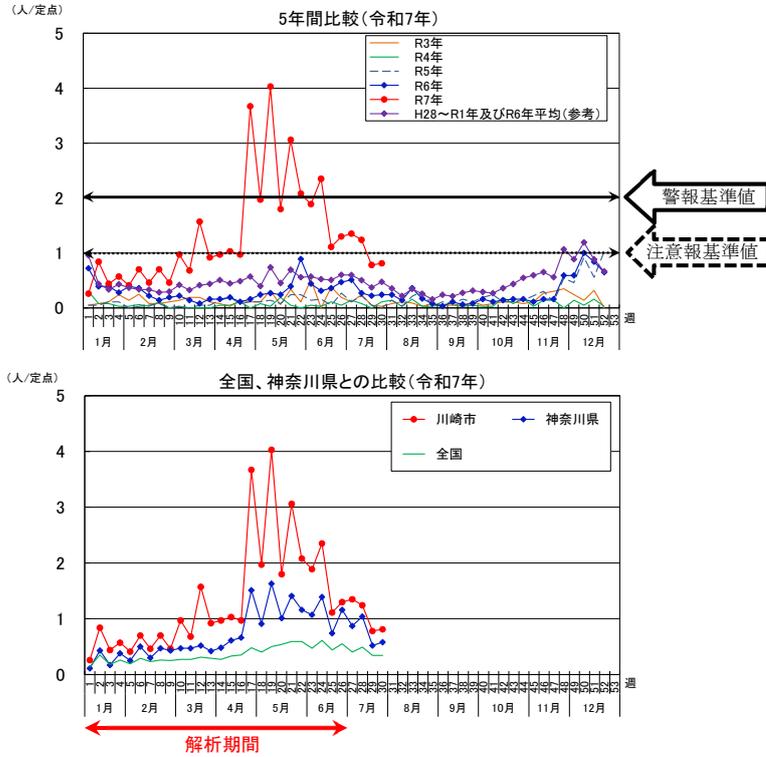


水痘(警報基準値:定点当たり2人、注意報基準値:定点当たり1人)

【川崎市】

今期は定点当たり1.36人の報告があり、過去5年平均と比較すると2.86倍で、例年よりかなり高いレベルで推移しました。第12週(3月17日~3月23日)(定点当たり1.57人)に流行発生注意報基準値、第17週(4月21日~4月27日)(定点当たり3.67人)に流行発生警報基準値を超え、その後も例年よりかなり高いレベルで推移しました。

今期、流行発生警報基準値(2)を超えた週は、第17週、第19週、第21週~第22週及び第24週でした。特に高津区、宮前区及び多摩区において、例年よりかなり高いレベルで推移しました。

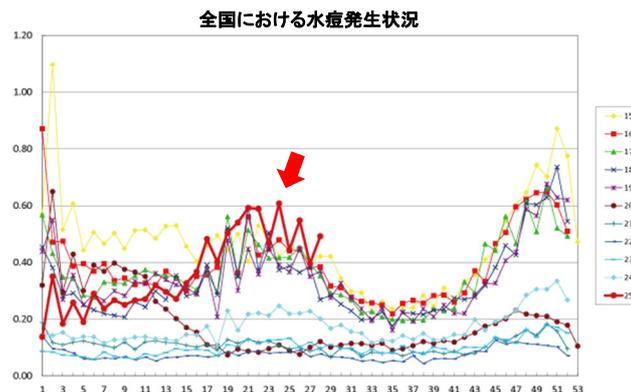


なお、病原体定点からの病原体検出状況は次のとおりです。

区名	患者性別	患者年齢	検体採取日	検査材料	検査結果
中原区	男	13	R7.1.6	咽頭ぬぐい液	水痘・带状疱疹ウイルス、ヒトヘルペスウイルス7型
中原区	女	14	R7.4.19	咽頭ぬぐい液	陰性
川崎区	女	7	R7.4.24	咽頭ぬぐい液	陰性
多摩区	男	9	R7.5.26	咽頭ぬぐい液	水痘・带状疱疹ウイルス
多摩区	女	4	R7.5.27	咽頭ぬぐい液	陰性
高津区	女	11	R7.6.2	咽頭ぬぐい液	水痘・带状疱疹ウイルス
多摩区	男	7	R7.6.2	咽頭ぬぐい液	陰性
多摩区	男	7	R7.6.3	咽頭ぬぐい液	水痘・带状疱疹ウイルス
多摩区	男	7	R7.6.5	咽頭ぬぐい液	水痘・带状疱疹ウイルス
多摩区	男	10	R7.6.9	咽頭ぬぐい液	水痘・带状疱疹ウイルス

【全国及びその他】

全国的には例年より高いレベルで推移しました。

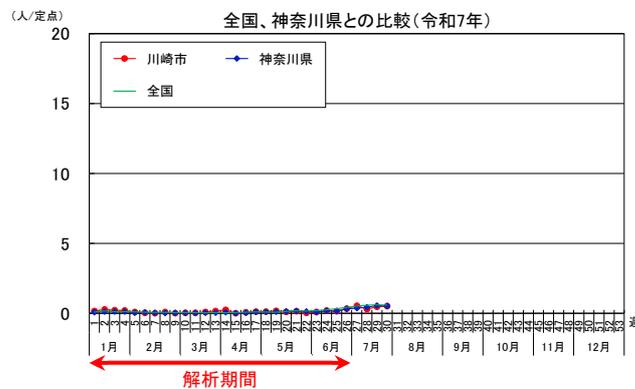
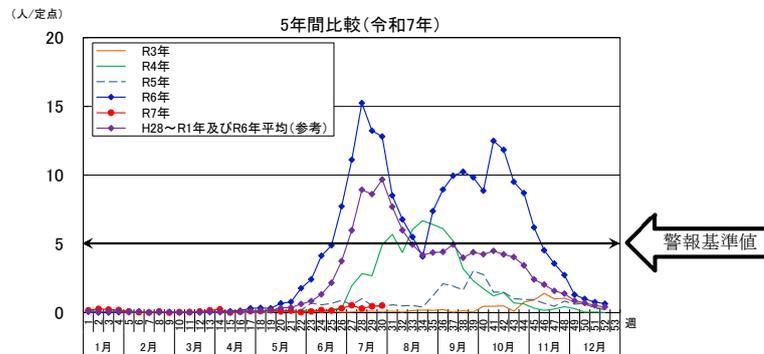


# 手足口病(警報基準値:定点当たり5人)

## 【川崎市】

今期は定点当たり 0.11 人の報告があり、過去 5 年平均と比較すると 0.26 倍で、例年より低いレベルで推移しました。

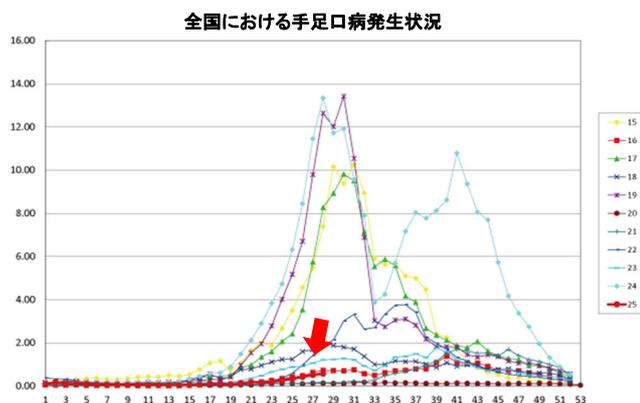
今期、流行発生警報基準値 (5) を超えた週はありませんでした。



なお、病原体定点からの検体の提供はありませんでした。

## 【全国及びその他】

全国的にも例年より低いレベルで推移しました。

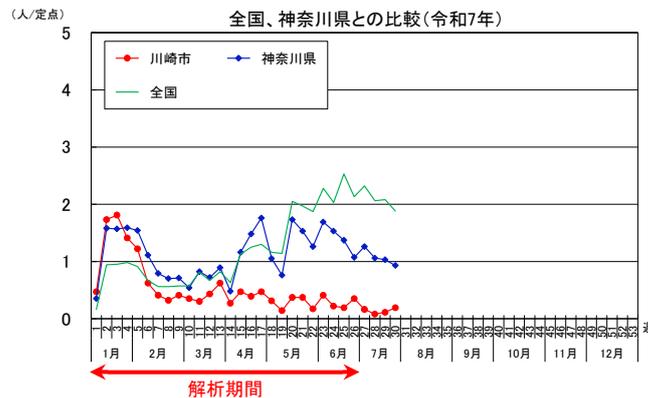
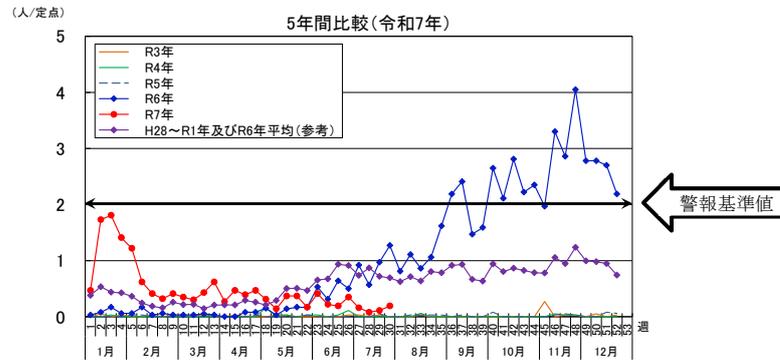


伝染性紅斑(警報基準値:定点当たり2人)

【川崎市】

今期は定点当たり 0.55 人の報告があり、過去 5 年平均と比較すると 1.45 倍で、例年よりやや高いレベルで推移しました。令和 6 年第 36 週(令和 6 年 9 月 2 日～9 月 8 日)に流行発生警報基準値を超えて以降、年当初からかなり高いレベルで推移していましたが、令和 7 年第 6 週(令和 7 年 2 月 3 日～2 月 9 日)に流行発生警報終息基準値(定点当たり 1.00 人)を下回り、その後報告数は減少しました。

今期、流行発生警報基準値(2)を超えた週は、幸区で第 4 週、宮前区で第 2 週及び第 3 週、多摩区で第 2 週～第 4 週、麻生区で第 3 週でした。

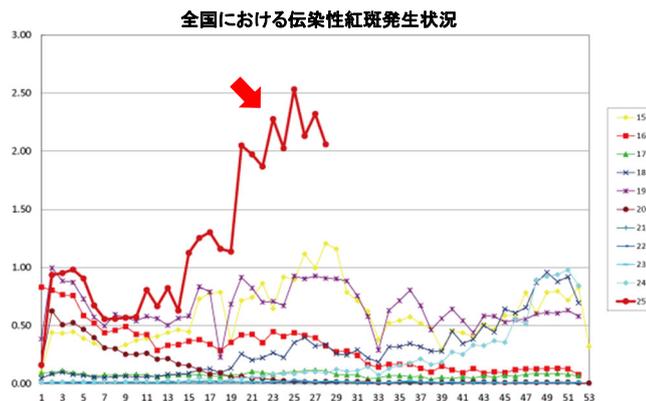


なお、病原体定点からの病原体検出状況は次のとおりです。

区名	患者性別	患者年齢	検体採取日	検査材料	検査結果
幸区	男	3	R7.4.7	咽頭ぬぐい液	パルボウイルス B19 型

【全国及びその他】

全国的には例年よりかなり高いレベルで推移しました。

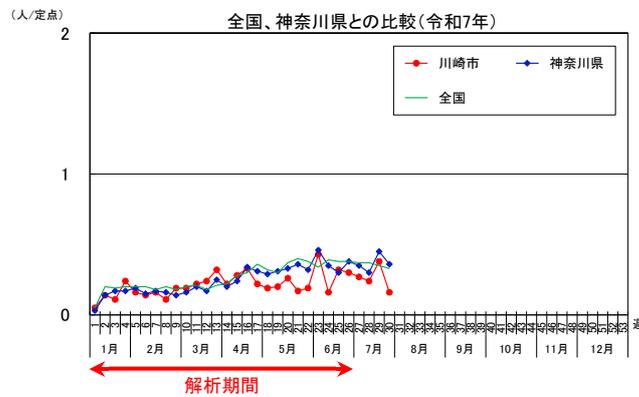
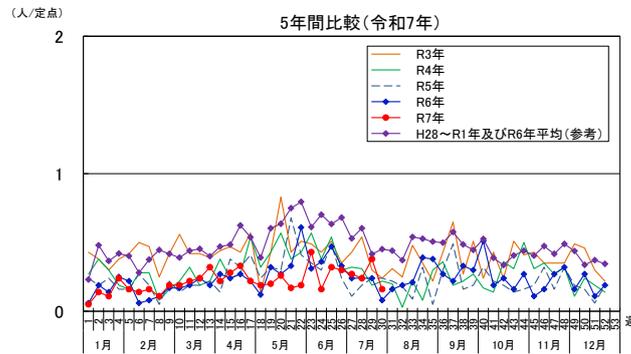


# 突発性発しん

## 【川崎市】

今期は定点当たり 0.22 人の報告があり、過去 5 年平均と比較すると 0.44 倍で、例年より低いレベルで推移しました。

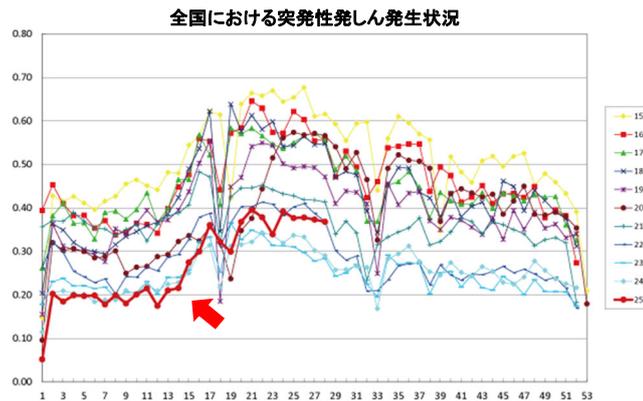
また、年齢階級別では 1 歳以下が 77.2%を占めていました。



なお、病原体定点からの検体の提供はありませんでした。

## 【全国及びその他】

全国的にも例年より低いレベルで推移しました。

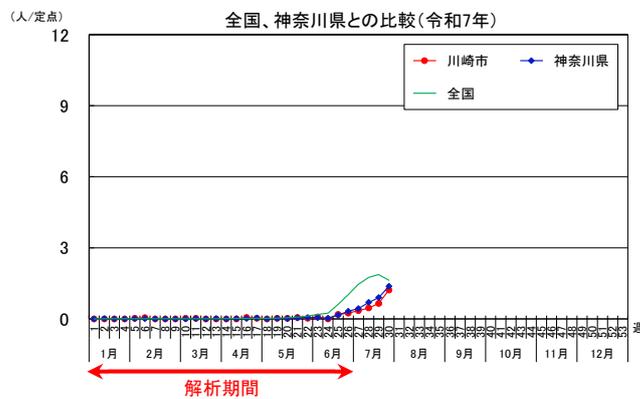
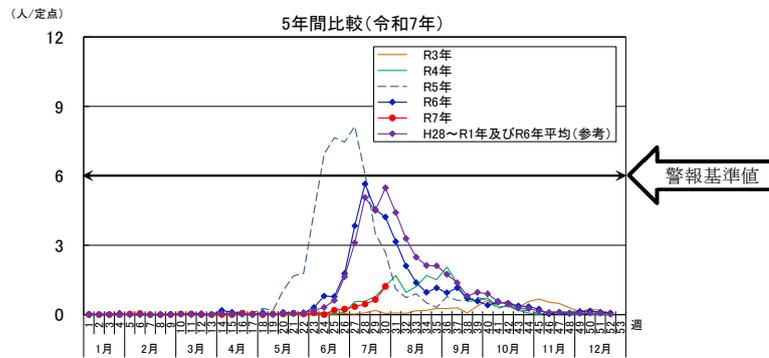


## ヘルパンギーナ(警報基準値:定点当たり6人)

### 【川崎市】

今期は定点当たり 0.03 人の報告があり、過去 5 年平均と比較すると 0.24 倍で、例年よりかなり低いレベルで推移しました。第 25 週（6 月 16 日～6 月 22 日）以降報告数が増加し、第 30 週（7 月 21 日～7 月 27 日）には定点当たり 1.22 人となりました。

今期、流行発生警報基準値（6）を超えた週はありませんでした。

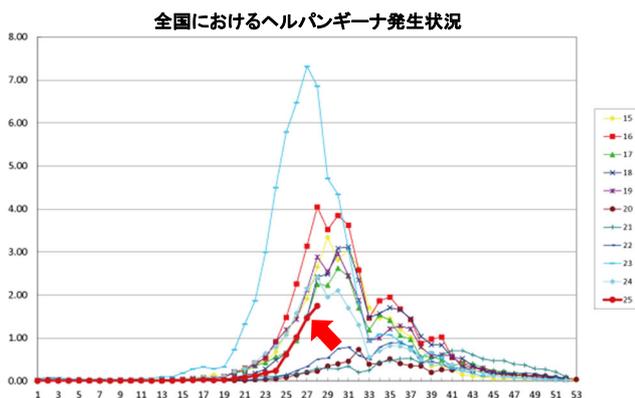


なお、病原体定点からの病原体検出状況は次のとおりです。

区名	患者性別	患者年齢	検体採取日	検査材料	検査結果
幸区	女	3	R7.5.19	咽頭ぬぐい液	エンテロウイルス 71 型

### 【全国及びその他】

全国的には例年よりやや低いレベルで推移しました。

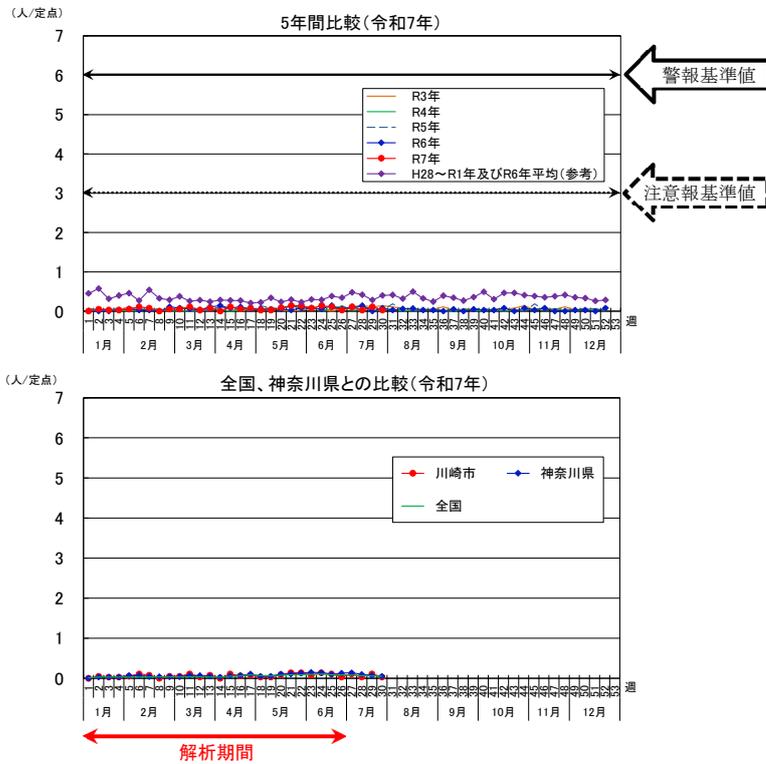


流行性耳下腺炎(警報基準値:定点当たり6人、注意報基準値:定点当たり3人)

【川崎市】

今期は定点当たり 0.07 人の報告があり、過去 5 年平均と比較する 0.21 倍で、例年よりかなり低いレベルで推移しました。

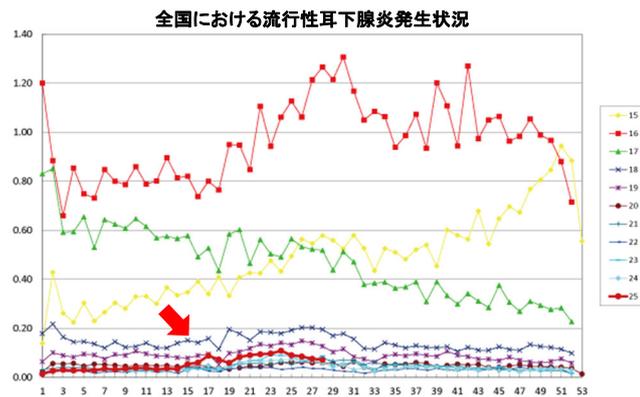
今期、流行発生警報基準値 (6) を超えた週はありませんでした。



なお、病原体定点からの検体の提供はありませんでした。

【全国及びその他】

全国的にも例年よりかなり低いレベルで推移しました。



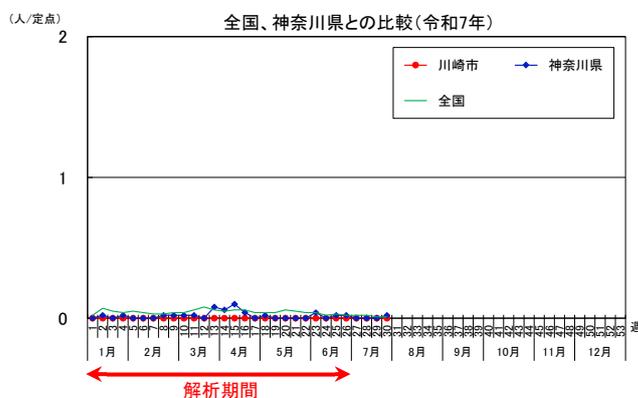
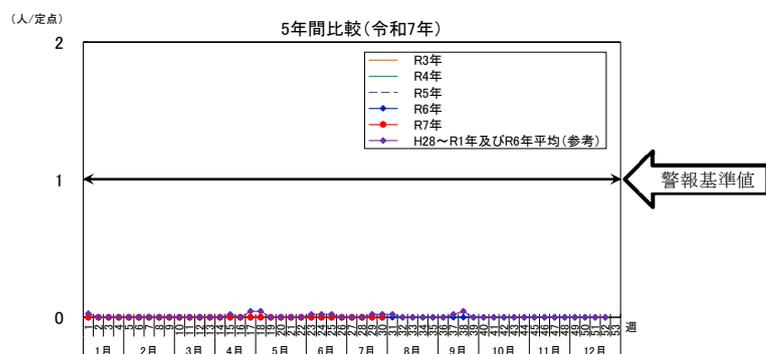
## <眼科定点対象疾患>

※令和2年～令和5年は新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、他疾患の報告数が通常と異なる傾向であったため、平成28年から令和元年及び令和6年の平均を過去5年平均とし、比較を行った。

### 急性出血性結膜炎(警報基準値:定点当たり1人)

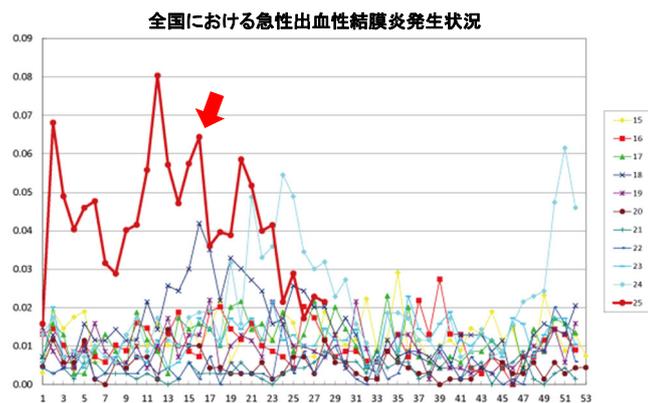
#### 【川崎市】

今期は報告がありませんでした。



#### 【全国及びその他】

全国的には例年よりかなり高いレベルで推移しました。

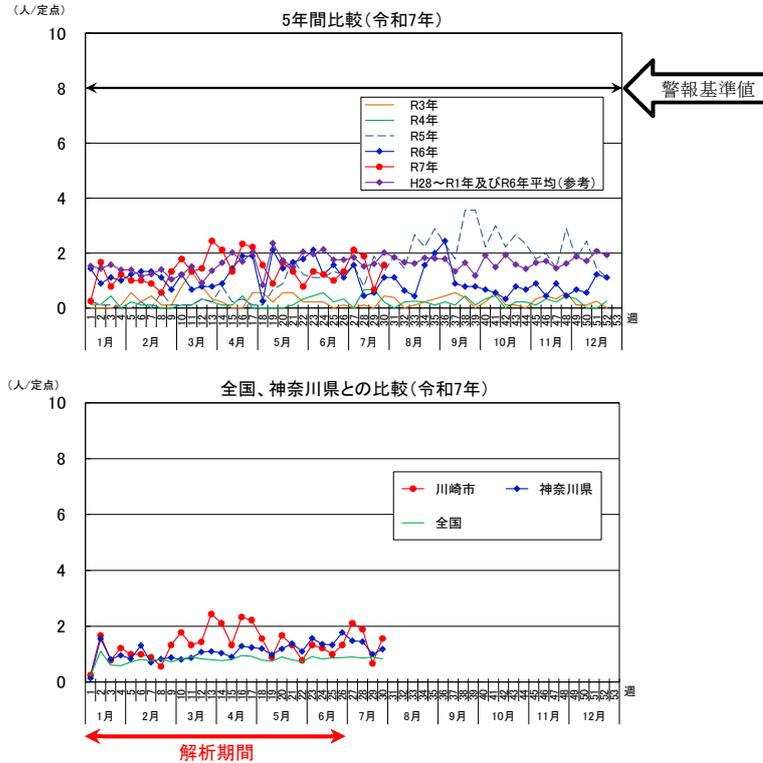


流行性角結膜炎(警報基準値:定点当たり8人)

【川崎市】

今期は定点当たり 1.36 人の報告があり、過去 5 年平均と比較すると 0.86 倍で、例年並みのレベルで推移しました。

今期、流行発生警報基準値 (8) を超えた週はありませんでした。

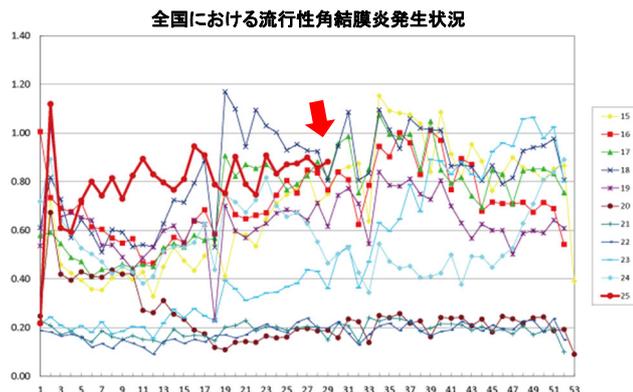


なお、病原体定点からの病原体検出状況は次のとおりです。

区名	患者性別	患者年齢	検体採取日	検査材料	検査結果
川崎区	女	26	R7.1.21	眼脂	ヒトアデノウイルス 37 型
川崎区	男	41	R7.3.10	眼脂	ヒトアデノウイルス 54 型
川崎区	女	44	R7.3.25	眼脂	ヒトアデノウイルス 54 型
川崎区	男	9	R7.4.8	眼脂	ヒトアデノウイルス 54 型
川崎区	男	8	R7.4.15	眼脂	ヒトアデノウイルス 54 型
川崎区	女	40	R7.5.12	眼脂	ヒトアデノウイルス 54 型
川崎区	女	24	R7.5.20	眼脂	ヒトアデノウイルス 54 型
川崎区	女	55	R7.6.12	眼脂	ヒトアデノウイルス 54 型
川崎区	女	9	R7.6.13	眼脂	ヒトアデノウイルス 54 型
川崎区	男	42	R7.6.13	眼脂	ヒトアデノウイルス 54 型
川崎区	男	35	R7.6.22	眼脂	ヒトアデノウイルス 54 型
川崎区	男	44	R7.6.26	眼脂	ヒトアデノウイルス 54 型

【全国及びその他】

全国的には例年よりやや高いレベルで推移しました。



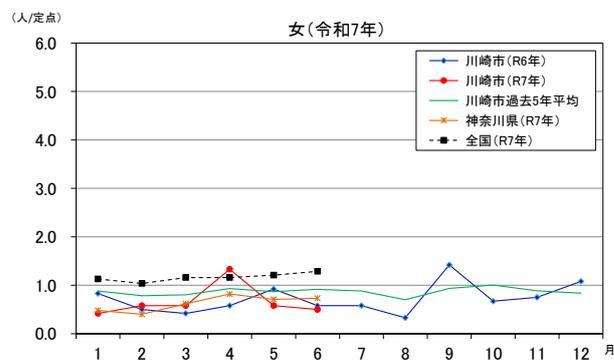
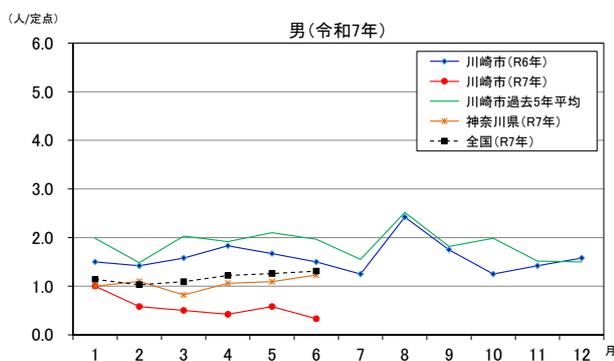
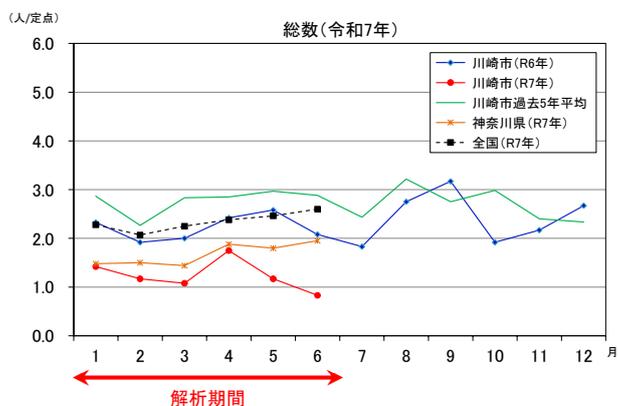
## <性感染症定点対象疾患>

※新型コロナウイルス感染症が流行した令和2年から令和5年においても、報告数に変化がみられなかったため、過去5年平均と比較を行った。

### 性器クラミジア感染症

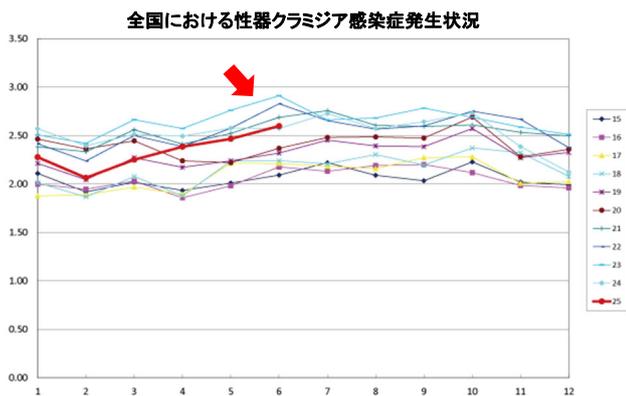
#### 【川崎市】

今期は定点当たり1.24人の報告があり、過去5年平均の報告数と比較すると0.45倍で、例年より低いレベルで推移しました。男性は1月、女性は4月に報告数が増加しました。



#### 【全国及びその他】

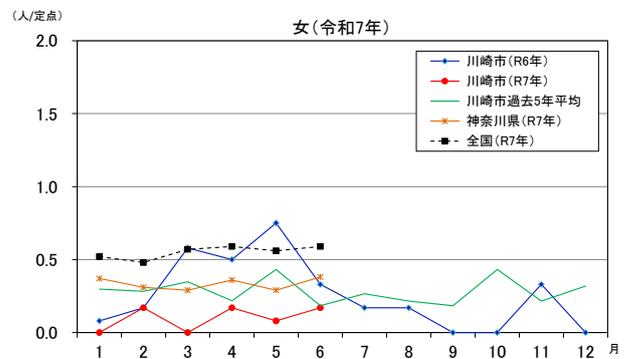
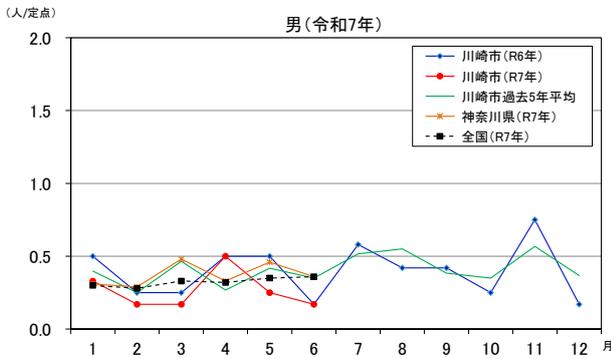
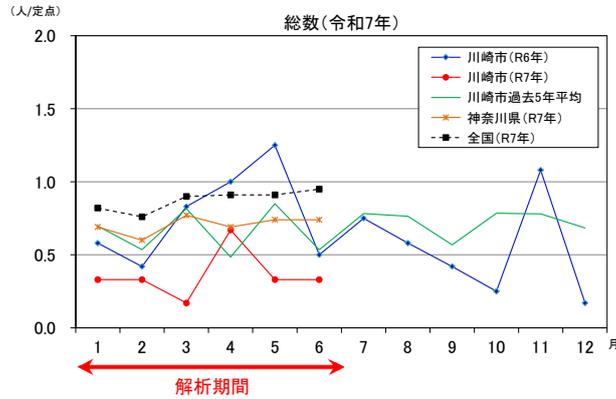
全国的には例年よりやや高いレベルで推移しました。



# 性器ヘルペスウイルス感染症

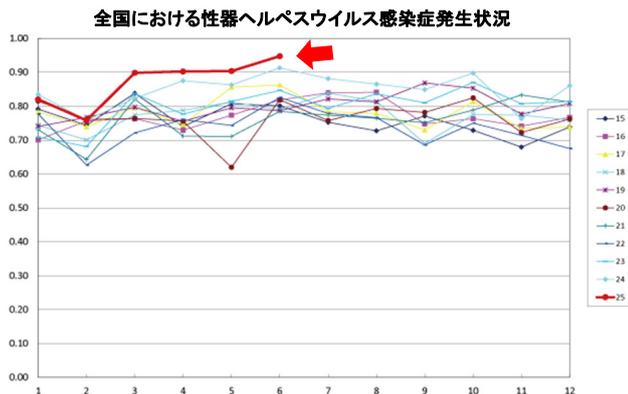
## 【川崎市】

今期は定点当たり 0.36 人の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 0.55 倍で、例年よりやや低いレベルで推移しました。男性は 4 月、女性は 2 月、4 月及び 6 月に報告数が増加しました。



## 【全国及びその他】

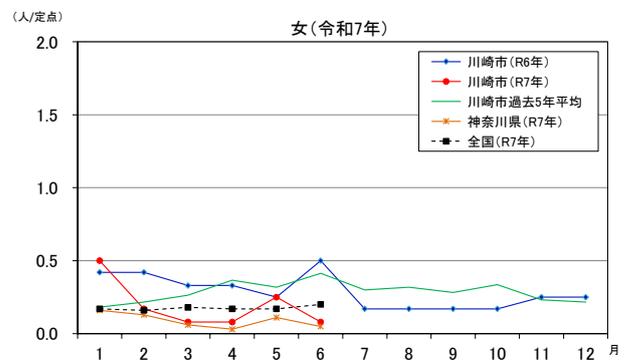
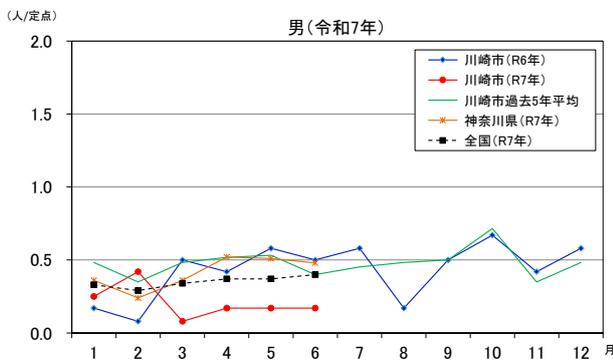
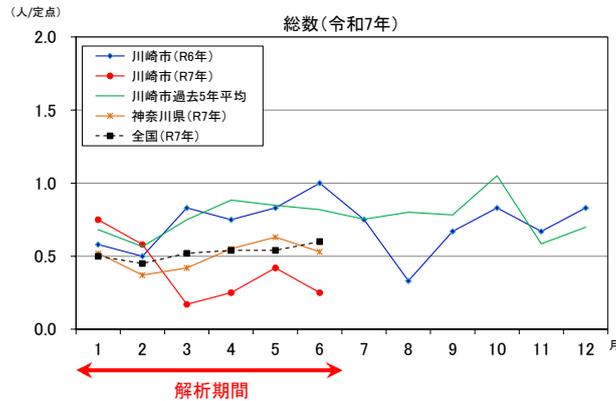
全国的には例年より高いレベルで推移しました。



# 尖圭コンジローマ

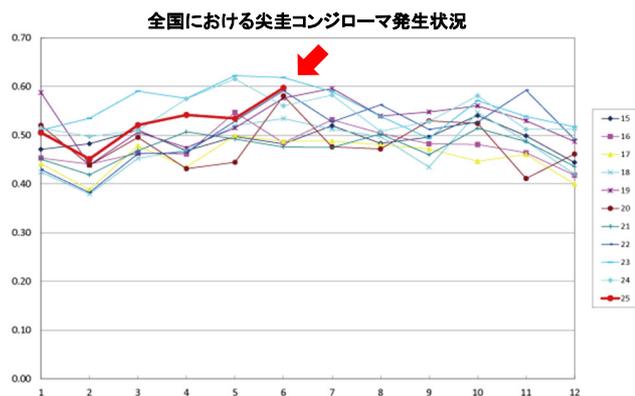
## 【川崎市】

今期は定点当たり 0.40 人の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 0.53 倍で、例年よりやや低いレベルで推移しました。男性は 2 月、女性は 1 月及び 5 月に報告数が増加しました。



## 【全国及びその他】

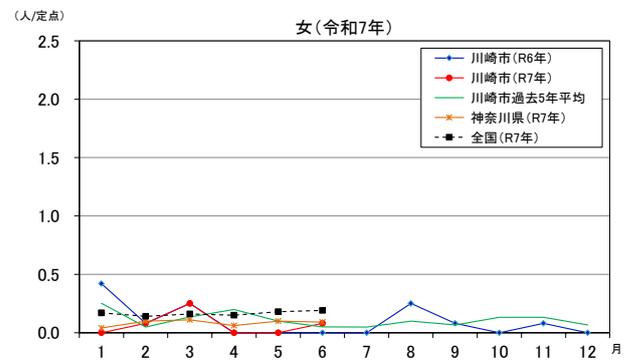
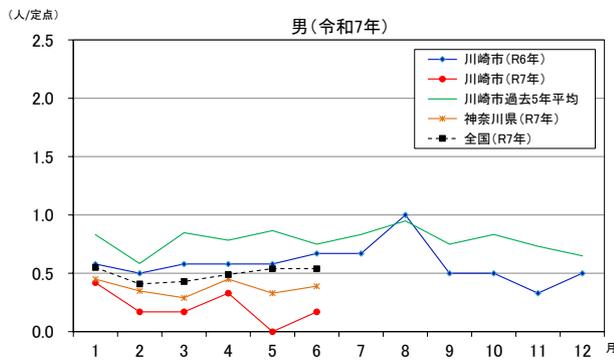
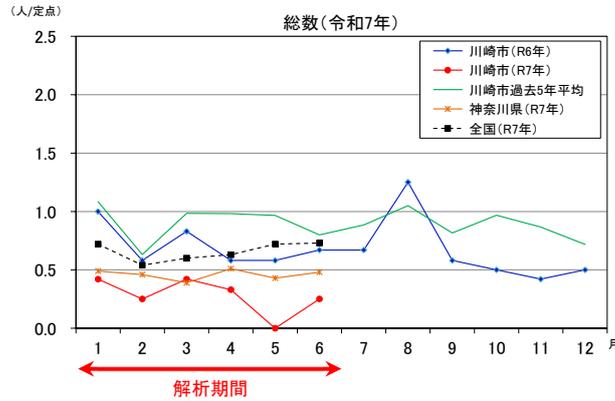
全国的には例年よりやや高いレベルで推移しました。



# 淋菌感染症

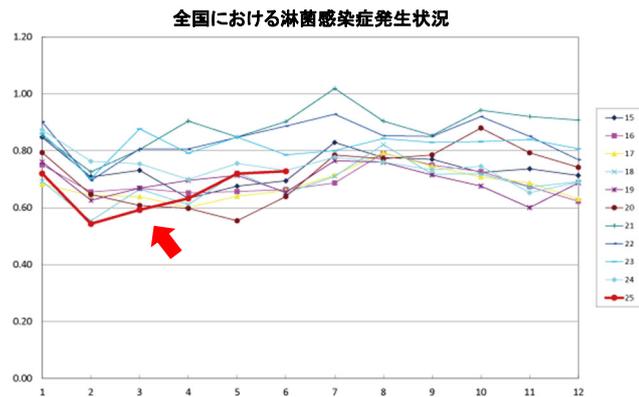
## 【川崎市】

今期は定点当たり 0.28 人の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 0.31 倍で、例年より低いレベルで推移しました。男性は 1 月及び 4 月、女性は 3 月に報告数が増加しました。



## 【全国及びその他】

全国的には例年よりやや低いレベルで推移しました。



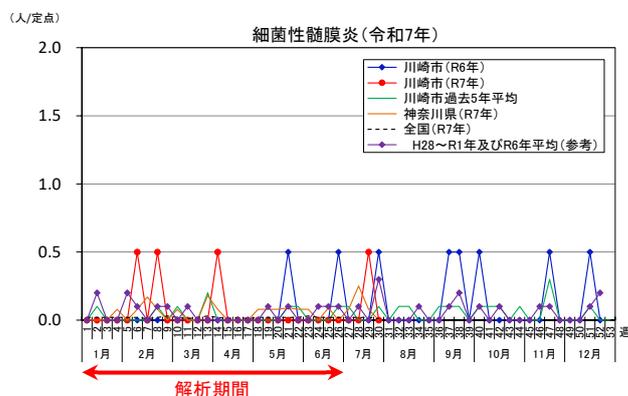
## <基幹定点対象疾患（週報）>

※令和2年～令和5年は新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、他疾患の報告数が通常と異なる傾向であったため、平成28年から令和元年及び令和6年の平均を過去5年平均とし、比較を行った。

### 細菌性髄膜炎

#### 【川崎市】

今期は定点当たり 0.06 人の報告があり、過去5年平均と比較すると 1.15 倍で、例年並みのレベルで推移しました。令和7年第6週、第8週及び第14週に各1件の報告がありました。

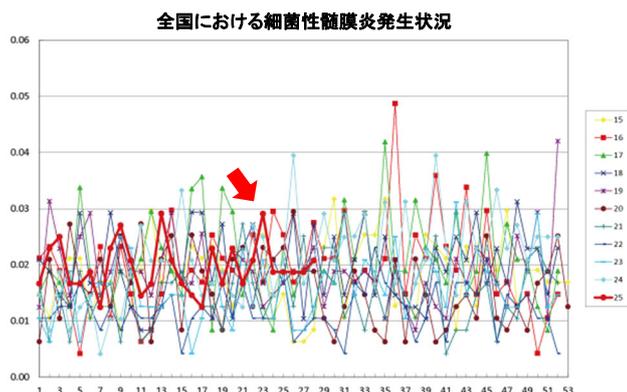


なお、検出された病原菌は次のとおりです。

区名	患者性別	患者年齢	届出週	検査材料	検査結果
宮前区	男	88	第6週	血液、尿	<i>Streptococcus other groups</i>
宮前区	男	51	第8週	血液	<i>Enterococcus faecium</i>
宮前区	女	19	第14週	髄液	<i>Streptococcus other groups</i>

#### 【全国及びその他】

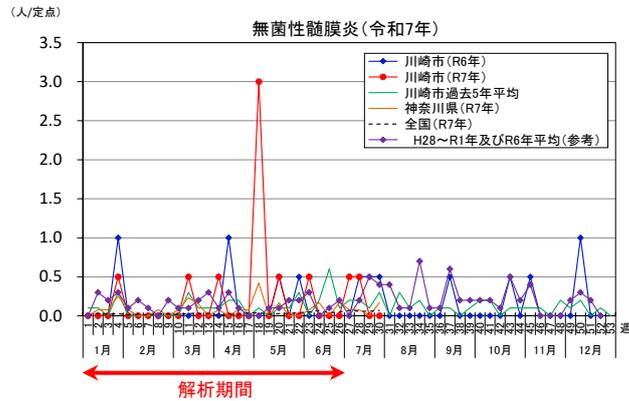
全国的には例年よりやや高いレベルで推移しました。



# 無菌性髄膜炎

## 【川崎市】

今期は定点当たり 0.21 人の報告があり、過去 5 年平均と比較すると 1.42 倍で、例年よりやや高いレベルで推移しました。

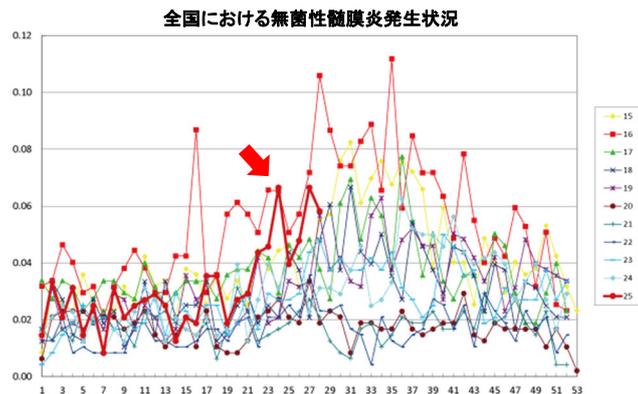


なお、病原体定点からの病原体検出状況は次のとおりです。

区名	患者性別	患者年齢	検体採取日	検査材料	検査結果
川崎区	男	32	R7.1.2	髄液	陰性
川崎区	女	50	R7.3.7	髄液	陰性
川崎区	女	67	R7.4.30	髄液	陰性
川崎区	男	56	R7.5.1	髄液	陰性
川崎区	男	84	R7.5.8	髄液	水痘・帯状疱疹ウイルス

## 【全国及びその他】

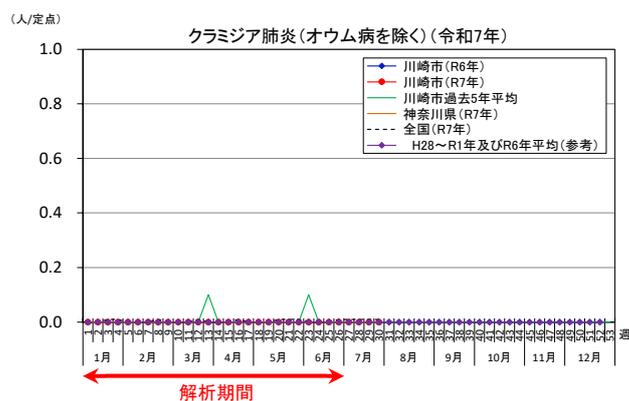
全国的にも例年よりやや高いレベルで推移しました。



## クラミジア肺炎(オウム病を除く)

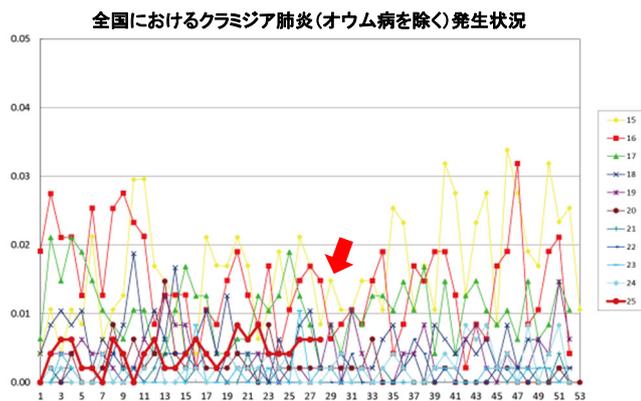
### 【川崎市】

今期は報告がありませんでした。



### 【全国及びその他】

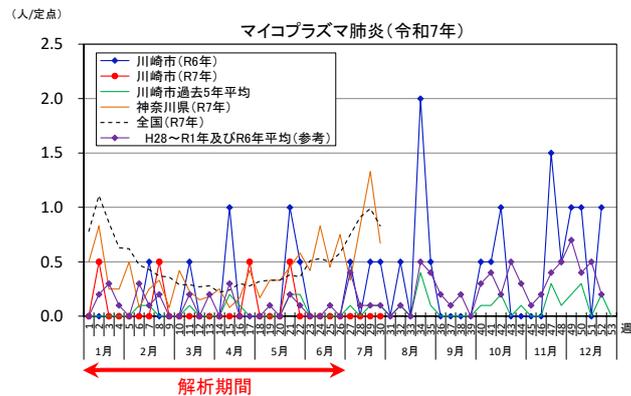
全国的には例年よりやや低いレベルで推移しました。



## マイコプラズマ肺炎

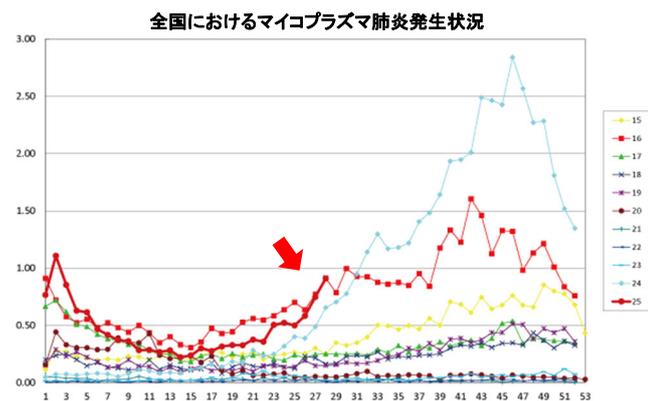
### 【川崎市】

今期は定点当たり 0.08 人の報告があり、過去 5 年平均と比較すると 0.87 倍で、例年並みのレベルで推移しました。



### 【全国及びその他】

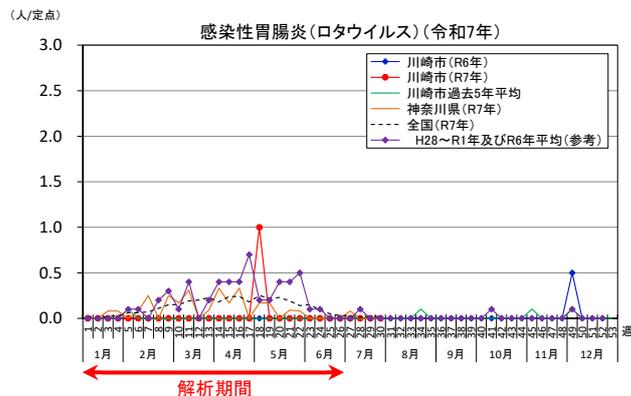
全国的には例年より高いレベルで推移しました。



## 感染性胃腸炎(ロタウイルス)

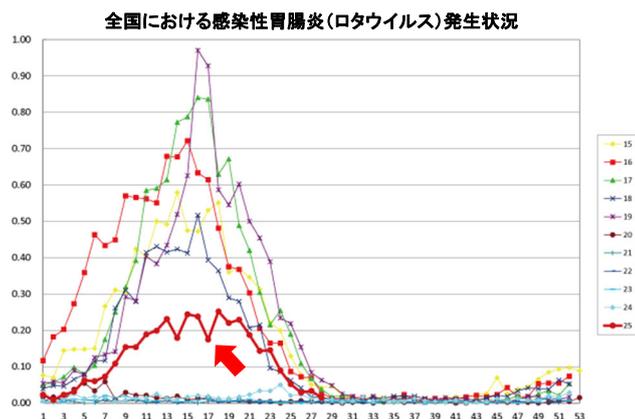
### 【川崎市】

今期は定点当たり 0.04 人の報告があり、過去 5 年平均と比較すると 0.20 倍で、例年よりかなり低いレベルで推移しました。



### 【全国及びその他】

全国的には例年より低いレベルで推移しました。



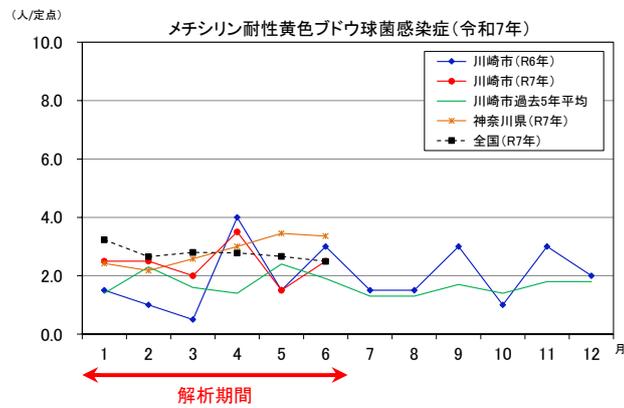
## <基幹定点対象疾患（月報）>

※新型コロナウイルス感染症が流行した令和2年から令和5年においても、報告数に変化がみられなかったため、過去5年平均と比較を行った。

### メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

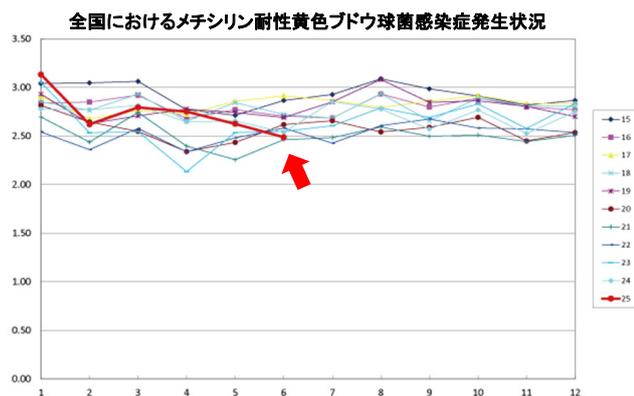
#### 【川崎市】

今期は定点当たり 2.42 人の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 1.32 倍で、例年よりやや高いレベルで推移しました。



#### 【全国及びその他】

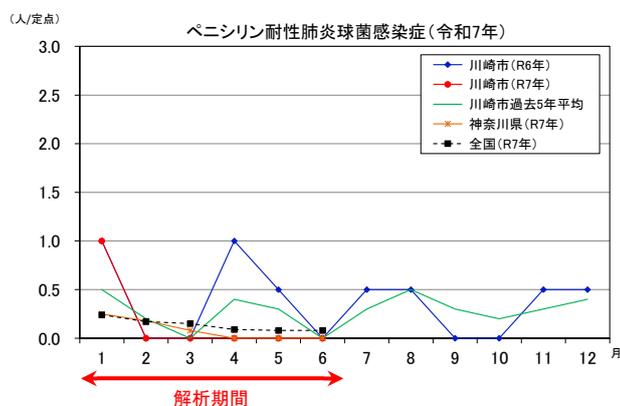
全国的には例年並みのレベルで推移しました。



## ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

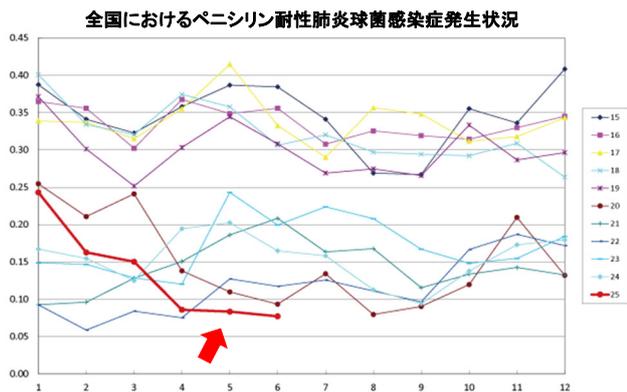
### 【川崎市】

今期は定点当たり 0.17 人の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 0.73 倍で、例年よりやや低いレベルで推移しました。1 月に 2 件の報告がありました。



### 【全国及びその他】

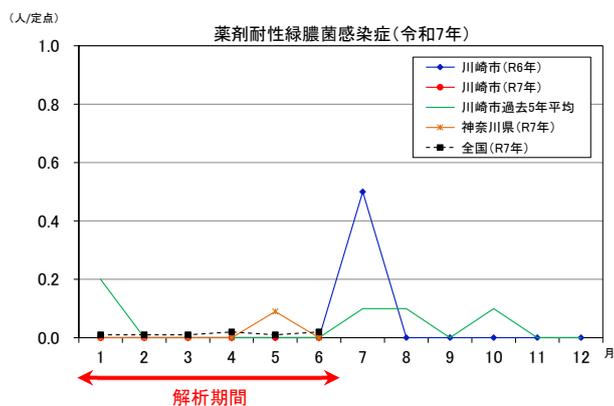
全国的にも例年よりやや低いレベルで推移しました。



# 薬剤耐性緑膿菌感染症

## 【川崎市】

今期は報告がありませんでした。



## 【全国及びその他】

全国的には例年よりやや低いレベルで推移しました。

